

## 妙法寺

妙法寺は、信越地方（現在の新潟県と長野県）に最初に建てられた日蓮宗の本山寺院です。長岡市の農業豊かな和島エリアに位置し、14世紀に城があった低山の斜面にあります。日蓮宗には日本全国に複数の本山があり、その一つである妙法寺は、日蓮宗の信徒にとって重要な巡礼先です。自然に囲まれたこの寺院は、四季折々の花や秋の紅葉、苔むす景色が人気です。

## 歴史

影響力のある僧侶、日蓮（1222年～1282年）は、1253年に法華経を中心とする自身の仏教の解釈を説き始めました。時間が経つにつれ、多くの信徒を獲得し、多くの弟子を持ち、死後も弟子が日蓮の教えを広め続けました。妙法寺は、日蓮の直弟子である日昭（1221年～1323年）が病気を治癒したとされる、信越地方の領主であった風間信昭（1354年没）の命により1306年に開山されました。風間は日昭の後援者となり、日蓮の25回忌にあたり妙法寺となる寺院の建立を後援しました。当初、妙法寺は將軍の所在地である鎌倉に建立されましたが、日昭が北越に日蓮の教えを広める高位の寺院がないことに遺憾の意を表したため、1323年に妙法寺は現在の長岡の地に移転されました。

1868年、明治天皇（1852年～1912年）のもとに樹立された勤皇方軍と徳川幕府方軍の間の戊辰戦争（1868年～1869年）中に妙法寺の大部分が灰燼に帰しました。その後、規模を縮小して再建され、現在、国内外からの日蓮信徒やその他の拝見者を迎えています。

## 境内

妙法寺は「花の咲くお寺」として知られています。春には山の斜面に珍しいユキワリソウが現れ、二天門付近には枝垂桜が咲きます。夏には青いアジサイや繊細な蓮の花が咲き、秋になると木々の葉が赤や黄色の温かみのある色合いに変わります。一年のほとんどの期間、境内は緑豊かな苔で覆われています。

本堂にある仏像群などが、ご本尊である日蓮作の曼荼羅を表すとされています。「南無妙法蓮華経」という聖なる言葉が記された宝塔の両側には、歴史上の仏陀である釈迦如来と多宝如来の像が置かれています。各如来には2体の菩薩と2体の方位の守護神である天王が伴います。正面には色鮮やかな日蓮聖像が安置されています。本堂の参詣のご希望の方はどうぞ寺務所までお問い合わせください。参詣案内は日本語で行われ、ボランティアまたは寺院のスタッフが対応できる場合に限りです。

本堂の右側には小さな開山堂があり、そこで風間信昭の供養が毎日行われています。開山堂の近くには、かつての経蔵である千佛堂があり、現在、戊辰戦争の犠牲者を吊っています。土造りの建物

の扉には、保存状態の良い龍と旅の僧侶の石膏レリーフが施されています。苔に覆われた石畳の先には、1693年に建立された七面宮があります。伝説によると、日蓮は流刑地である佐渡島へ向かう途中、悪霊に悩まされている村に出くわしました。日蓮は経典の力を用いて、その霊を美しい乙女と龍の姿をした七面という守護神に変えました。現在、七面神は日蓮宗徒の守護神として崇められています。

妙法寺に戊辰戦争以前から残る建造物は、1682年建立の赤い二天門、1677年建立の黒い四脚門、そして七面宮だけです。両門とも長岡市有形文化財に指定されています。